

Summary, 8 July, 2020

日時：2020年7月29日 16:00～17:00

場所：Zoomによるオンライン開催

「アイク語（パプア・ニューギニア）の音素体系」

発表者：山本恭裕（東京外国語大学世界言語社会教育センター講師 / フィリピン語、言語学）

本研究はアイク語の音素体系を記述する。アイク語はパプア・ニューギニアのサンダウン州モナンディン地区で話される非オーストロネシア語族の言語である。本研究では現地調査により収集したデータに基づき、次の発見について報告する。アイク語の子音音素の数は多くないが、前鼻音化閉鎖音 /^mb, ⁿd, ^ŋg/ や前閉鎖化鼻音 /^hŋ/ などの、調音の最中で調音方法に変化を伴う分節音により特徴付けられる。母音音素も子音同様に規模は小さく、/a, i, u/ の3つを持つ。子音、母音ともに長短の区別は存在しない。母音 /i/ と /u/ はそれぞれ母音 [i], [u] と子音 [j], [w] の2つの異音を持つ。また、[i] が挿入母音や弱化母音として出現する。母音には鼻音化や低下、上昇などの変異が観察される。以上の音素目録の記述に基づき、子音について、目録の規模が小さい一方で複雑な調音を含む分節音を持つ事実は、目録形成に見られる通言語的な傾向から逸脱することを示す。